

中国多地域間産業連関モデルの概要

1．対象地域

東北地区	- 黒竜江省、吉林省、遼寧省
北部直轄市	- 北京市、天津市
北部沿海	- 河北省、山東省
中部沿海	- 江蘇省、上海市、浙江省
南部沿海	- 福建省、広東省、海南省
中部地区	- 山西省、河南省、安徽省、湖北省、湖南省、江西省
西北	- 内モンゴル自治区、陝西省、寧夏自治区、甘肅省、青海省、新疆自治区
西南	- 四川省、重慶市、雲南省、貴州省、広西自治区、チベット自治区

2．モデルの形式

チェネリー・モーゼス型から列係数にてアイザード型に転換する。

3．推計手法

各地域の投入係数、最終需要、付加価値、輸出入を各種データにもとづいて推計した。列係数の中心である地域間取引については、レオンチェフ・ストラウト型のグラビティモデルによって初歩的な推計を行った。また中国の国家重点企業を対象に、サーベイを行い、地域間取引の基礎データとした。これらのデータをチェネリー・モーゼス型にして、地域間取引係数を利用してアイザード型の多地域間モデルにした。

4．プロジェクト参加者

岡本信広（開発研究部） 井原健雄（香川大学教授） 金澤孝彰（和歌山大学助教授）
日置史郎（東北大学助教授） 張亜雄（国家信息中心課長） 趙坤（国家信息中心）
佐野敬夫（岐阜聖徳学園大学教授）

5．関連成果

岡本信広編(2002)『中国の地域間産業構造 - 地域間産業連関分析 - (I)』アジア国際産業連関シリーズ No.61 アジア経済研究所

岡本信広編(2003)『中国の地域間産業構造 - 地域間産業連関分析 - (II)』アジア国際産業連関シリーズ No.63 アジア経済研究所

6．備考

本研究は、アジア経済研究所と中国国家信息中心の共同研究成果である。